



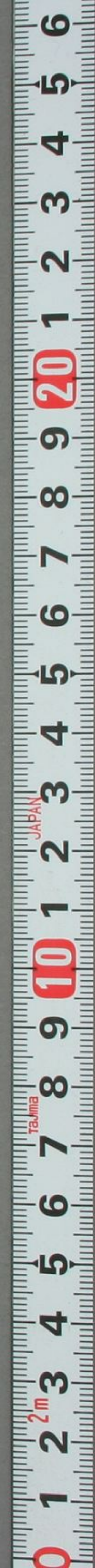
久保田
梁山著

小學

書法辨

全

多
子
108



久保田梁山先生著
市川万菴先生 木村二梅先生
中根半嶺先生 右先生之五體書了

小學書法辨

東京 書肆 高山堂藏

東京
書肆
高山堂

明治七年六月九日
西是齋
氏寄贈

東京
書肆
高山堂

利
474

108
卷

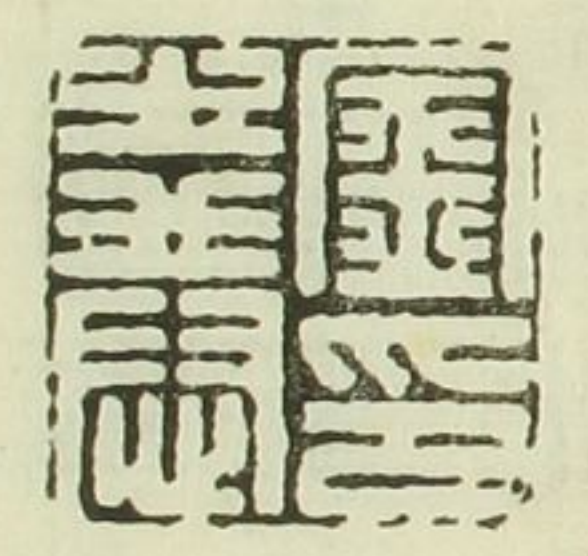
法古

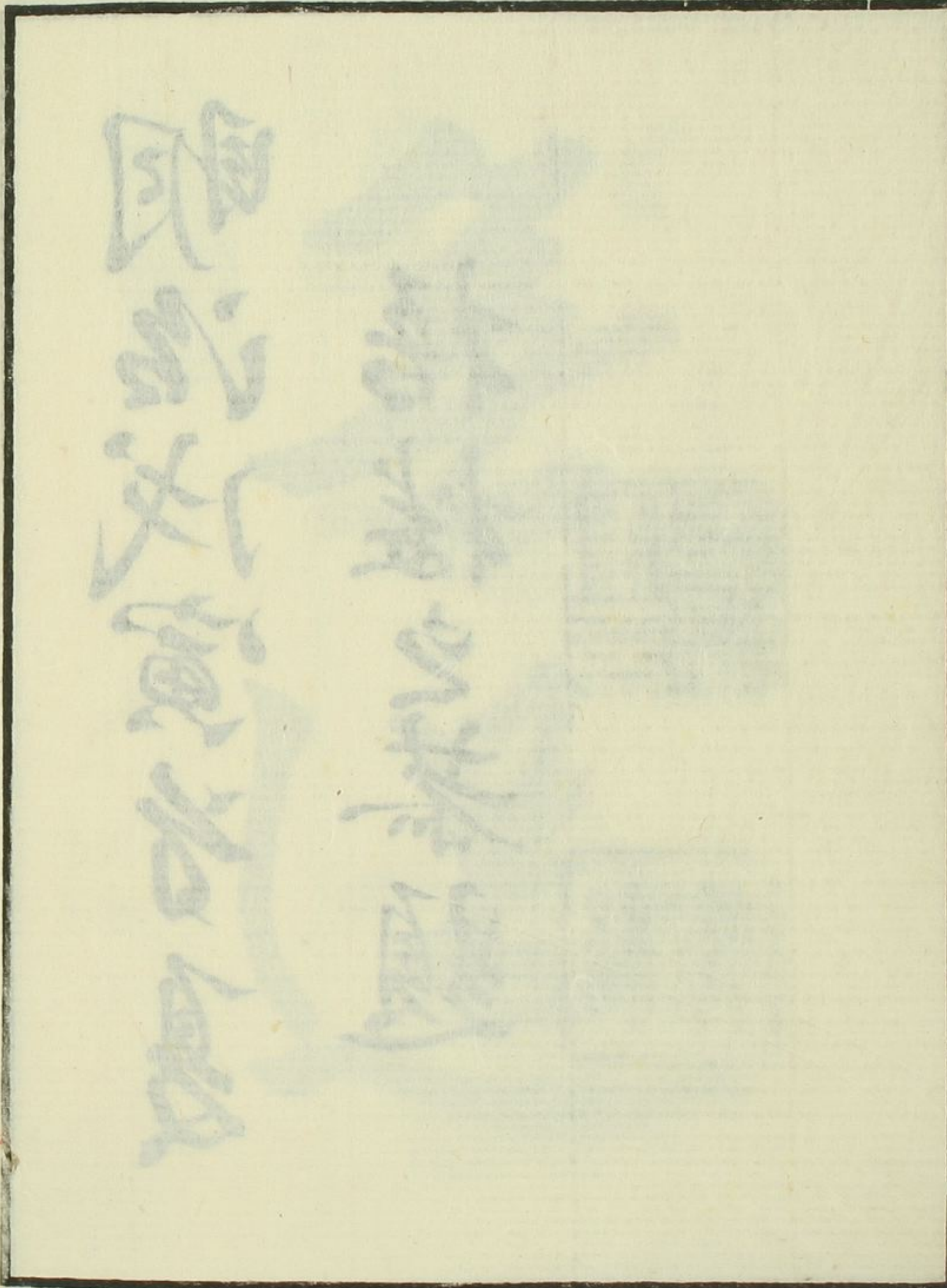
小學書法序

冬
過

明治戊寅首夏

梧楼之恭題





書法辨序

臨書之法、要先得大槩、學楷書者、欲其端正、則當舒遲、學草書者、欲其勁峭、則尚疾速、古人下筆、如風捲落葉、頃刻滿紙、又或極意遲緩、然而疾速者、多有敗筆、而舒遲者、終虧絕倫之妙、故遲速未始不相須也、而書與詩之、亦必藉人品、而得其妙巧、蓋有所不可強者、人品既

學書法辨
高則其餘伎隨之而臻超逸之境當今
之時工詩與書者莫如我梁山先生焉
先生拔俗之標高出風塵以養性情其
工詩書出于自然不假矯飾以故一時
名聲動天下先生嚮編纂明治詩文名
媛絕句既行于世讀書之暇又為藝苑
著書法辨使人知某字從何起構某畫
作何殺煞體勢法度一々指示臨書之

致運筆之機可謂詳且盡之美若披此
卷者審用筆之法從容玩味久而熟之
得其要領而後可以已矣雖然字々畫
々便求酷似亦非先生之意云爾

明治十一年四月

坂府 中井豐亨識

此書ハ予カ漫遊中諸名家ヲ訪フテ新説古論
ヲ聽テ佳説アルコトニ之ヲ筆記シ後年再ヒ
崎陽ニ遊ヒ在留セル支那人王克三ナル者ア
リ之ニ從事シ亦上海ニ漂遊シテ諸名家ヲ訪
ヒ名談奇説アレハ聞コトニ之ヲ登録シタル
ナリ今茲ニ著スハ則積年ノ筆記ナル故ニ前
後錯雜首尾曾テ具セサルナリ
一此書ハ固ヨリ博雅ノ君子ニ供スルニ非ス幼
年書學ノ者ノ速ニ受用シヤスキヲ要スルカ

例言

一此書ハ予カ漫遊中諸名家ヲ訪フテ新説古論
ヲ聽テ佳説アルコトニ之ヲ筆記シ後年再ヒ
崎陽ニ遊ヒ在留セル支那人王克三ナル者ア
リ之ニ從事シ亦上海ニ漂遊シテ諸名家ヲ訪
ヒ名談奇説アレハ聞コトニ之ヲ登録シタル
ナリ今茲ニ著スハ則積年ノ筆記ナル故ニ前
後錯雜首尾曾テ具セサルナリ
一此書ハ固ヨリ博雅ノ君子ニ供スルニ非ス幼
年書學ノ者ノ速ニ受用シヤスキヲ要スルカ

故ニ俗間鄙語ヲモ敢テ改メス聞取タル儘ヲ
書シ以テスルハ幼年ヲ導クニ耳ヲトリテ口
授シ手ヲ以テ指ザスノ意ナルナリ

一 始ニ五體ヲ出セシハ真行章草八分草ノ書體
ヲ知ラシメンカ為ナリ

一 執筆ノ畚ヲ出セシハ枕腕提腕懸腕單指ノト
リ方ヲ知ラシメンカ為ナリ

一 永字八法及ヒ雜点ヲ出シタルハ点畫ノ名ヲ
知り而シテ後チ結構ニ至ルカ故ナリ

一 結構文字數点ヲ出シタルハ重擊重捺平收仰

收覆收等ノ字體ニ嫌フベキ者ヲ知シメンカ
為ナリ

一 運筆數字ヲ出セシハ一畫ヨリ數畫ニ至ルノ
順次ヲ知ラシメンカ為ナリ

一 大篆籀文小篆楷書行書章草八分草書等ノコ
トヲ出セシハ何ノ書ハ何ノ頃口ニ始リ其ハ
何ノ書ヲ能スルハ一ヲ知ラシメンカ為メニ
スルナリ

一 墨筆硯紙ノ粗惡良材ノコトヲ出セシハ書學
ノモノ此ノ四品ニ注意セサレハ能書家ト雖

モ其ノ美書ヲ得ルヲナキガ故ナリ

著者シルス

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百]

學小書法辨

久保田梁山著

五體書

永晁夷節



履凍將羨

右楷書 万算無

叔乘霄駟

瓦鯨孤癖

太宰學 万宅魚

講書筆硯 半額書

躍 課 翼 翫 半 額 書

右八分

初 田 虜 劍

先 覽 元 院

右行書



采 茲 戒 戡

書法總論

古學名



夫執筆畧辨
撥鐙法ヲ以テ論スル者多シト雖

○夫執筆畧辨
 氏此法ニ於テハ種々議論アルカ故ニ敢テ之
 ヲ鮮コトセザルナリ先ツ執筆ハ實指靈掌ト
 テ五指ノ間ノスカヌヤウニレテ掌中ハ虎
 口ヲ開クガ如シトイフ又筆ヲトルニ管二分
 ヲ過ズトイフ筆管ヲアマリ深ク執レハ運動
 自在ナラズ亦淺ケレハカラ乏シトイフ
 眞行草ニ於テハ執筆ニ遠近ノ區別アリテ楷
 書毫端ヲ去ル一一寸行書二寸草三寸トアリ

小書法辨

四

楷書ハ字形ノ正直ナル故ナリ行書ハ筆ノ働
 ヲナスモノナルガ故ナリ草書ニ於テハ一筆
 ニシテ連字ヲ書ルモノナレハナリ其ノ意ヲ
 了解スレハ真行草ゴトニ區分スルニモアラ
 ス

○用筆ニ種々ノ議論アリ無根水筆トイフテ根

マテヨク洗フテ墨ヲ含マセ筆モノアリハ分
 ニ含マセルアリ五分ニシテ止ムモノアリ墨
 ハ文字ノ血ノ如クニシテ含ミ過レハアマリ
 テ濃淡飛白ナシ濃淡飛白ナケレハ韻致ナシ

韻致ナケレハ俗書ナリ墨ヲ含ムトアマリ
 ケレハ枯木ノ如クニシテ潤致ニ乏レ潤致ニ

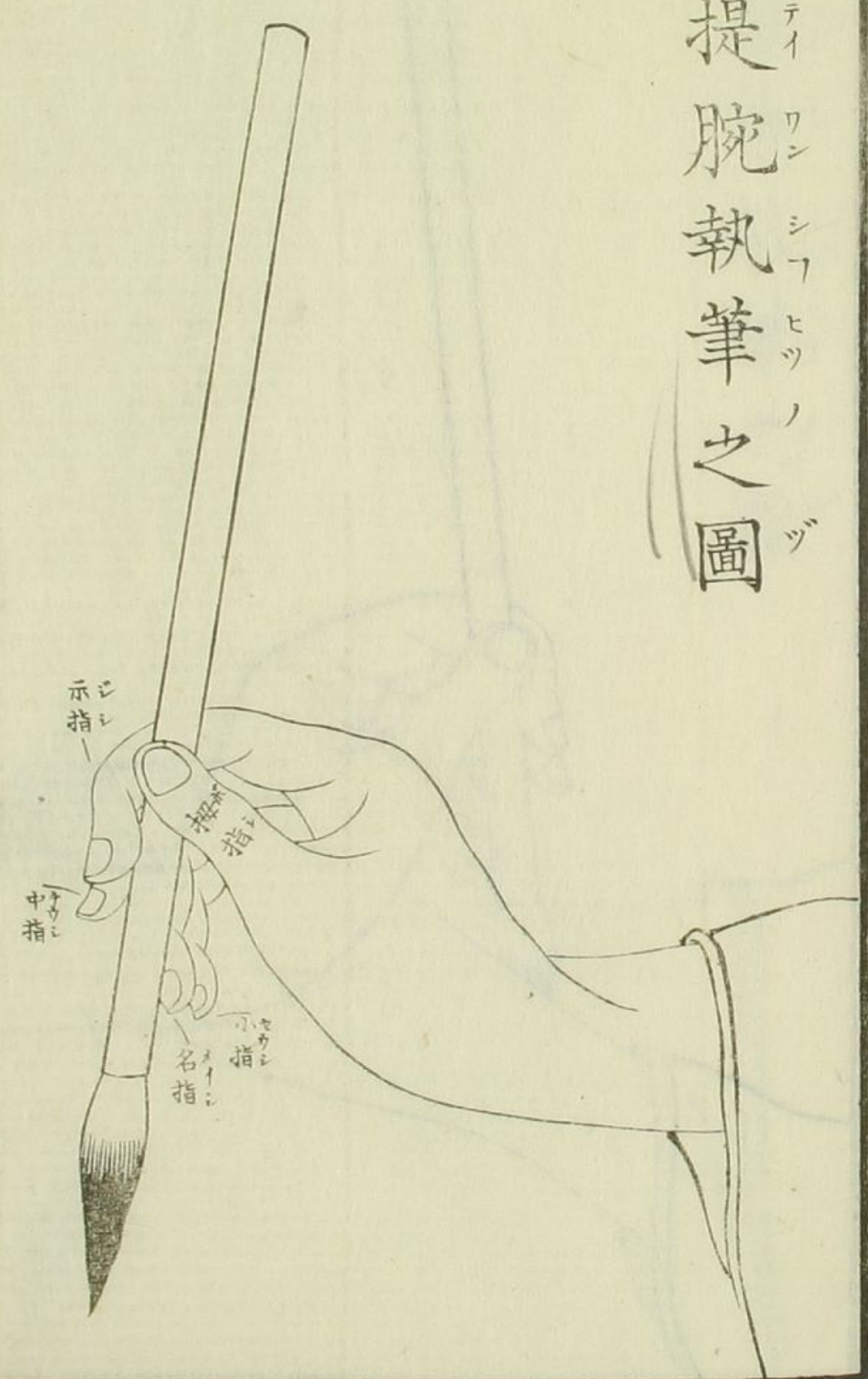
○枕腕トイフアリ腕トハ手クビニテ左ノ手ヲ

右ノ腕ノシタニシキテ書スナリ支那ニテハ
 割リタル竹ヲシキテ書スルモアリ之ヲ腕枕
 トイフ今誤リテ日本ニテ煎茶器ニ用ユル茶
 計コレナリ枕腕ハ小楷ヲ書スルナリ
 ○提腕トハ物ヲヒツサグルナリ故ニ肘腕節ヲ
 カ、ゲテ書スナリ中字ニ用ユルナリ

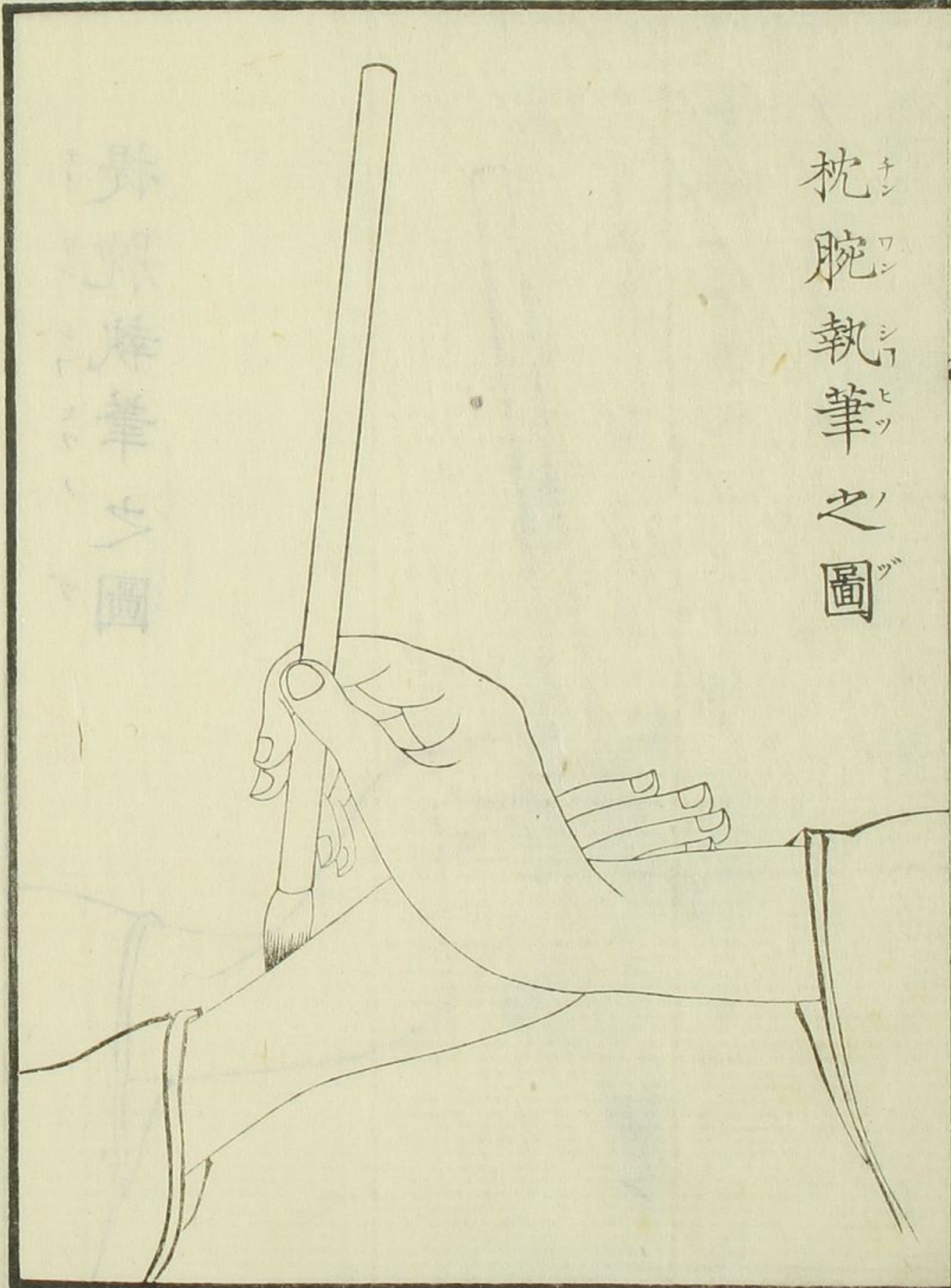
○懸腕トハ肘ヲカ、ゲテ書スルヲイフ大字ニ
 多ク用ユルナリ

○クンシ單指ニテ書スルアリ此ハ篆書ニ多ク用ユル
シメスニナリ篆書ハ筆モ又異リテ毫末ヲ火ニテヤキ
ケノサキ尖リヲトリテ書スレハ可ナリトイフ

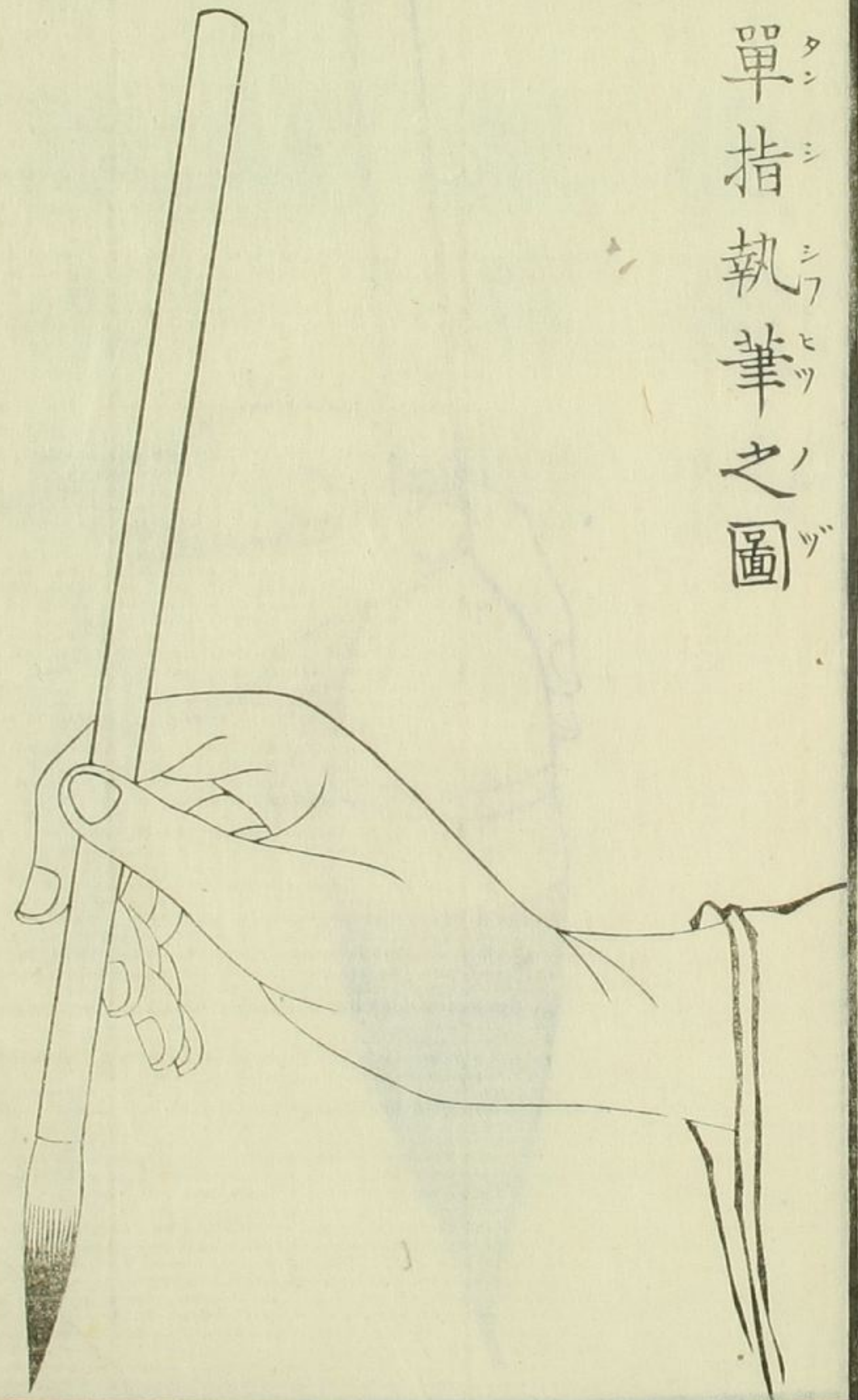
提腕執筆之圖



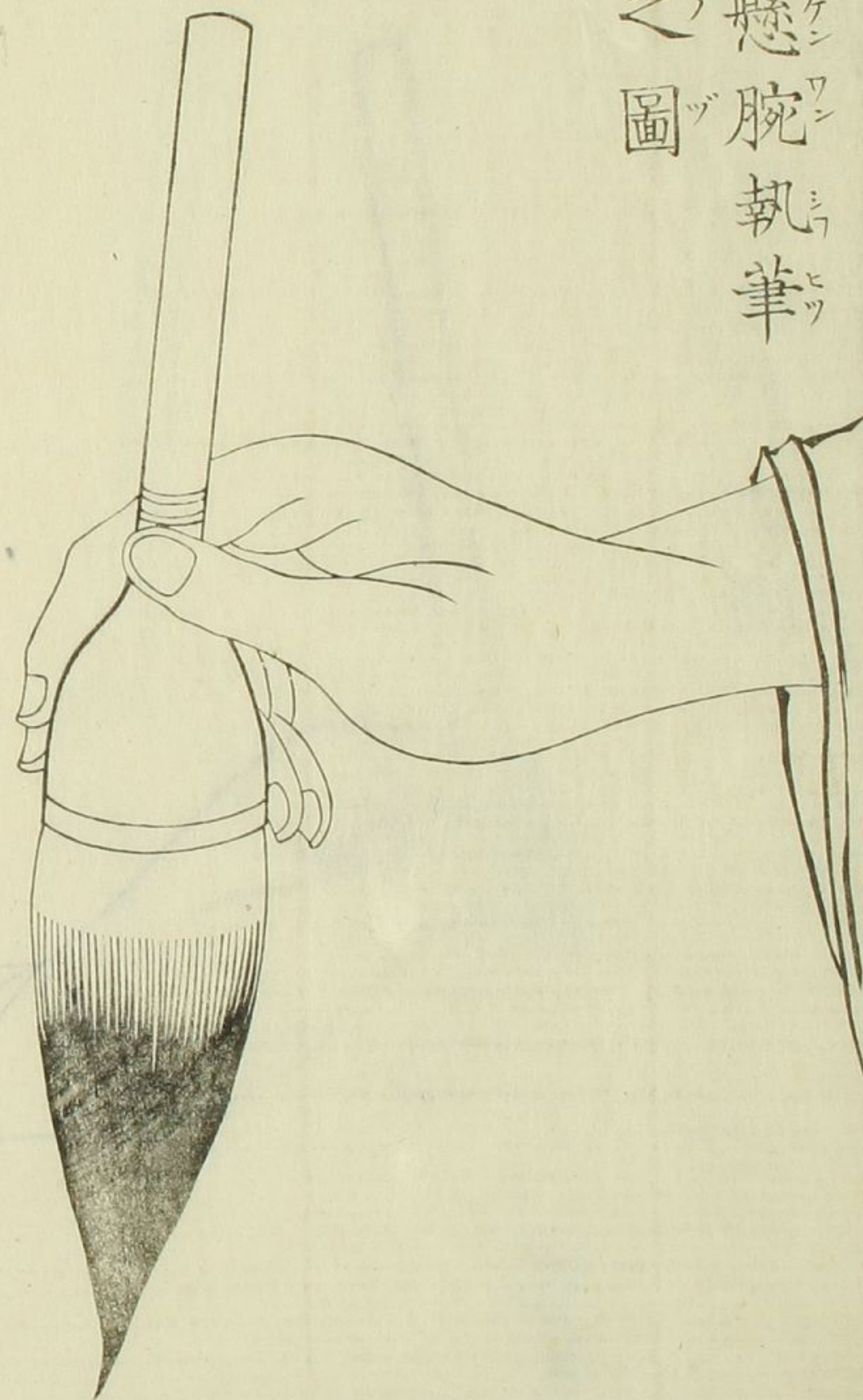
枕腕執筆之圖



單指執筆之圖



懸腕執筆之圖



撥鐙法

撥壓鈎揭抵拒導

送

○ 擧者擧大指骨上節

○ 下_カ端_{タンヲ}用_{モチエテ}力_{チカラヲ}欲_レ直_{チヨクナラント}如_{ゴトシ}提_{ヒツサクルガ}千_ニ

鈞キンラ

○ 歷者アフ捺食オシ指著メイ中指シラツク

節旁セツノカタハラニ

○ 鈞者コウ鈞中ハカメテ指著チウ指著シラツク指尖センノ

鈞筆コウシテ令シム向ハ下ニ

○ 揭者ケイ揭名ハカケ指著ノイ外爪シラツク

肉之ニク際ノ揭筆サイニカケ令シム向ハ上ニ

○ 抵者テイ名指ハ揭筆メイ中指カゲ

抵住オサハトム

○ 拒者キヨ中指ハ鈞筆チウ名指シ

拒定 キヨ テイス

○導者ダウ ハ小指セウ シ引ヒキ名ノイ指シ過ラ スグ

右 ニ

○送者ソウ ハ小指セウ シ送オクワテ名ノイ指シ過ラ スグ

左 ヒタリニ

○送者ソウ ハ小指セウ シ送オクワテ名ノイ指シ過ラ スグ

側 側
勒 勒
策 策
掠 掠
永 永
努 努
趯 趯

側 ゾウ点 テントモ云フ

腕 ワデヲソバダテ、鋒 ホウヲ
三ツニ折ル意アリ

一

勒 ロクヲ畫 カクトモ云フ

腕 ワデヲカ、ケ仰 キョウシテカヲ
得 ウイヘンルトイフ



努ドヲ竪畫シユカクトモイフ
ダテノモノ

錢柱テツチノ如シトイフ
アマリ直チキナレハ却テ
カヲウシナフ
マヌク



趯テキヲ勾コウトモ云フ

鋒ホウヲスコシ下ヘオ
シ而メ趯テキス筆ノサキ
ヲナトラセテハホル
ナリ



策サウヲ短畫タンカクトモ云フ

鋒ホウヲ下ヨリ上ヘハネ
アケル意アリフ加
此キモノニ似ニタリ



掠リゼンヲ捺バツトモ云フ
ヒヨリニテルモ

鋒ホウヲスコシ上ヘツク意イ
アリテ先サキノマガラメヤウ
ニスラリト出イダスベシ



啄タクヲ短擊タンキトモ云フ

鋒ホウヲツキコムヤウニシテ
カヲ出スナリ其ノ形鳥ノ
口ハシノ如シ



磔タクヲ捺サツトモ云フ

腕ウデヲカハゲソヨク引ヒキキ
留トドマテ而テハナリナリ
小渠セウキョ
ヲトフニ似ニタリヒキハルノ意
ナリ

永字八法

永字八法ハ其ノ初メ後漢ノ蔡邕嵩山ニ入り神人ヨリ之ヲ受ケ崔瑗及ビ其ノ女文姬ニ授ク文姬之ヲ鍾繇ニ傳ヘ繇之ヲ衛夫人ニ傳ヘ夫人之ヲ王羲之ニ傳フ羲之ヨリ以下名家皆之ヲ尊ビ之ヲ重ンジ相授受シテ以今ニ至ルト云フ意フニ蔡邕神人ニ受クルノ説固ヨリ奇異信ズベカラズ蓋當時書法ニ委キ者創メテ之ヲ造リ以其ノ跡ヲ神ニスルナラン然レモ其ノ法至リテ約而其ノ法甚博キヲ以後ノ書ヲ學ブ者必之ニ由

リテ以筆法ノ變化ヲ解セザル可カラザルナリ

○幼年書學ノ者ハ始メニ楷書ヲ學ヒテ後ニ行書草書トナル故ニ彼邦ニテハ七八歳ニテ大楷ヲ學ヒ十二三ニテ中楷ヲ學ヒ十五六ニ至リテ小楷ヲ學ヒ行草ハ之ニ次ク又楷書十字ヲ學フハ草書百字ヲ學フニ優レルトアリ楷ハ坐スカ如シ行ハ立カ如シ草ハ走ルガ如ト云フカ故ナリ

雜點



カクゴトキノ
如此ヲ覆收ト云フ又平畫トモイフ横畫トモ云フ
筆管ヲ拇指ノ腹ニ當テ名指ノ爪肉ノ間ニオキ
示指中指ニテ内ヘカク意アリ小指名指ヲ送ルヲ急ニスルナリ
トリスユヒ



如此ヲ仰收ト云フ平收仰收
上ヘメルヲイフ
覆收
平收 仰收 覆收
之ヲ三法ト云フ同勢
ヲサケンカ為ナリ



如此ヲ瓜種ト云フ
フテヲ斜ニシテウツナリ又密畫ノモ
ノハ畫中ニシヤマニナラヌヤウニウツベシ



如此ヲ挑点トイ
フ四点皆變申ヘス
ルヲヨシトス

ゴイシヲ並マクル
形ヲキラフ
行書ニ用ユルナリ



如此ハ顧眄ト云フ
楷書ニ用ユ



散水ト

上ノ点ノ下ルヲ受テカヲ得ル



懸鉞トイフ
鋒ヲ下ヨリ上ヘ槍キテ藏
鋒シテ出ルナリ

一

垂露トイフ

ツエノタル、貞ニテ鋒ヲ遲滞シテ
ハラハントシテアトニ戻ル意ナリ

フ

努勾トイフ

壯士ノ臂ヲ張ル如クスベシ
腕ヲカ、ゲテ鋒ヲオドラシテ号ノ形ニスベシ

ノ

長撃トイフ

鋒ヲ捨キカヲ得
テスラリト左ニ出スベシ

ス

背鋒トイフ 從腕トモ

イフ手腕ニシタカウテ出ス
ミナ背クモノヲイフ

シ

上ニ同

歐陽詢コレヲ用
ユ

及

重撃トイフ

二撃同シカラサヲ要ス
兩牙ノ形ヲキラフ

乃

如此ヲキラフ

し

桃鋒トイフ

モノヲヒツサケル意ナリ
猪遂良コンヲ用ユ

川

向鋒

向鋒ハタビニヤ
カヒアフ

國

如此モノヲイフ

川

背鋒

ソムクモノハ互ニ
ソムクナリ

丹

如此キモノ

食

上ヲハラヒ下ヲトム
上ヲトムレハ下ヲハラ
フベシ

食

如此ヲキラフ

一

游魚トイフ波勢トモイフ
鋒ヲ捨キカフ得ル腕ノ
カ、ケテソヨ／＼ト引キ留テ而ナス

書

文間布白トイフ

如此平畫ノオホキモノハ

文間ノ不同ノナキヤウニスベシ

量

上ト同

七

從戈トモイフ手腕ニシタ

カツテカヲ出スモノ勁松ノ

高峯ヨリオチテ石崖ニカルガ如シトイフ

六

蓋 寶

如此モノハ覆收ト

イフテオホフテオサ

ムルモノ

一

漫游魚

トイフテ波勢ト

同シヤウノモノ李邕多ク用ユ

鼠

如此点ノ多

キモノハ一々

變更スルヲヨ

興

畫中ニ点ノオホキモノ

ハジヤマニナラヌヤウニ

スベシ

ハ

顧^コ眄^{ベン}スルモノクガヒ
ニハニラミオフ

ム

拂^{ハク}テアラタニカヲ得ルモ
ノハ筆ヲ改^カメテ斜^サメニ
スルナリ

百

目

如此モノハ中ノ点ヲ輕^ケ
クスバシ重キヲキラフ

勿

三^{サン}擊^キノ同シヤウニ
ナルヲキラフ

勿

如此ヲキラフ

大字結構

宇宙宮

上^ウ寬^{クワン}ニシテ、下^カヲ蓋^{オホ}ヒ盡^{ジュ}
スベシ

且至里

下^カノ一畫上ヲノセテ動カザ
ル様ニスベシ

助即却

左^{ヒダリ}高^{タカ}ク右^{ミダリ}低^{ヒカ}ク書スベキ
モノハ左ニサカフベカラス

體願順

左^サ右^{ミダリ}平^{ヘイ}ニシテ、高^{タカ}低^{ヒカ}長^{チガハシ}短^{ミダリ}
ナク均^{ヒトシ}クスヘシ

時晴竦

右長ク左短ク書スヘキモノ
ハ右ヲ長クス

謝樹衛

中ヲ正クシテ左右カタヨラサル
モノハ均ク平カニナルヲ要スバシ

變響需

上下ラ一ツニワカチ長短ヨク
調フモノハ上下カタムカヌ様ニスバシ

雷雪普

上ハヒロク下ノセマクスバキモノ
ハ下ノ大ナルヲキラフ

衆畧要

上セマク下ノヒロキモノ

國固門

両肩兩脚ミナ平ニシテ
長短ナキモノハ高低アルヲキラフ

南丙兩

兩方ノ肩ヲヒラクモノハ兩脚
ヲセマクスベシ

壽畫量

文間ヲヒトシクスルモノハ
不同アルヲキラフ

軍單畢

監畫ノ鋒ヲチムガシ展ス
フキラフ

車申中

タテニヒキテノハスバシ懸針ヲイ
フナリ

師明野

上平ニスルモノハ左ヲ小ニスバシ

朝叙叙

下平ナルモノハ右ヲ小ニスバシ

喜吾玄

平畫ヲナカクスバシ覆收ニスルモノ

甲干平

直正ニシテカタムカス様ニスヘシ

此七也

平畫ヲタイラニシテカヲ失スルモノナリ

三云去

横畫ヲ平ニスバシ

烏馬烏

句中ニ二點ヲツムトイフ

曾善英

上ノヒラキテ、下ノ合スルモノ

罔周同

四方ミナ直ニシテユルヤカニスバシ

西曲田

兩方ノ肩タテ、平ニヒラクラヨシトス

友及反

左ニ出ルモノニ擊同シキヲ
キラフ

采孚安

三点ミナニラミオフベン石ヲ
並ベタル形ヲキラフ

無照然

四点ミナ同シ様ニスバカラズ
一々變スベシ

升舛拜

右ノタル、者ハ左ミシカクス
バシ

笄并亦

左ニタル、モノハ右ヲナカク
スベシ

尹戶居

頭小ニ尾ヲ大ニスベシ左
出ルヲ長クスベシ

金合舍

上ノ左右ヒトシク合カツヲヨシ
トス

鳳風氣

從腕トテ手腕ニシタカツテ
カヲイタスベシ

波池海

下点ハ上点クタルヲウケテ
カラ得ベシ

晶品石砧

カサナルモノハ平均ニシテ
高低アルヲキラフ

數敬劉

左大ニシテ畫細ク右ハ小ニシテ畫ノ粗ナルモノ

鶯鸞叢

上下ユタカニシテ平ニシ中ハセマクスベシ

華衝擲

上下セマク小ニシ中ヲユタカニスルモノ

爪介川

左ニ出スモノ展バベレテ右メバ字形ト、ノハズ

宁可市

上ヲ寬ニシ下ヲナガクスベシ

春卷太

下ユタカニ上ハ快^{セシ}ヲナスモノハ短^{カン}慶^{ケイ}ヲ用ユ

癸食黍

右ニ出スモノ捺^{ゲツ}トイフニツ重ルトキハ一ツヲトミムベシ

丈尺史

斯ノ如キ波勢ハ藏鋒シテカヲ出スナリ

心思必

斯ノ如ハ横戈^ゴ彎^{マカ}セズンハカヲヤブル

天文父

弊ノ中ニアルモノハカタヨラヌヤウニスベシ

其具典

上合シ下開

句勾甸

勾ハ直キヲキラフ若シ直ケレバ、
飽滿ナラズ

東束米

正ト偏ト相倚リテ風致ヲ
ナス

紫旭勉

勾ノ伸ビ縮ミヲ斟酌シテ一
體ヲナス

鵝輝頰

左ノ勾ヲチビメテ右ニ便ス

見毛尤

横腕ヲ長クスベシ 短キハ
却テ力ヲ失ス

上下士

字畫疎ナルモノハ豊肥ヲ
貴ブトアレハ過レハ俗書ニチカシ

爨籟縻

重畫ノモノハ高低ナクト、ノ
フテミタレス様ニスベシ

竹林羽

右ヲユタカニスバシ

自目耳

長キモノハ短キヲ求ムベカ
ラズ

白 曰 白

短キモノハ長キ要セス

震 囊 橐

大ナル者ハ相聚^{アツク}リテシマリ
アルヲヨシトス

ム 口 小

小ナル者ハ豊富ニシテ^{ケン}嚴
シユク
肅ナルヲ善ス

限運筆前後法

王

一
二

田

一
二

隹

一
二
三

馬

一
二

匹

一
二

左

一
二

右

一
二

有

一
二

凸

一 ㇀ ㇀ ㇀

凹

二 ㇀ ㇀ ㇀

戌

戌 一

戌

戈 ㇀

必

㇀ ㇀ ㇀ ㇀ ㇀

匡

㇀ ㇀ ㇀ ㇀

臣

㇀ ㇀ ㇀

坐

㇀ ㇀ ㇀

州

㇀ ㇀ ㇀ ㇀ ㇀

卵

㇀ ㇀ ㇀

門

㇀ ㇀ ㇀ ㇀ ㇀

亞

㇀ ㇀ ㇀ ㇀ ㇀

兕

㇀ ㇀ ㇀

非

㇀ ㇀ ㇀ ㇀

飛

㇀ ㇀ ㇀

亞

㇀ ㇀ ㇀ ㇀ ㇀

書

日 聿 一

垂

一 千 北

乘

人 二 北

畝

久 十 田

區

區
匕

牽

六
么
牛

將

一
寸
彳

寒

宀
二
令

肅

肅
巾
聿

無

三
曲
灬

畱

田
口
田

曷

冂
三
曷

黽

口
匕
目

鼎

鼎
目
井

片

一
丿
丌

母

一
丿
勹

華

一
一
艹

戩

音
又

虞

一
ノ
象

止

一
止

司

一
丁
口

羽

羽
羽

兆

一
次
川

鼠

鼠
鼠
二

來

父十

敝

文尚小

爾

𠂇 一 口

興

𠂇 用 𠂇 二

聚

取 𠂇

龜

𠂇 𠂇 𠂇

龍

音一

學

𠂇 𠂇

齋

川 齋 示

羸

章 肌

盈

乃 𠂇

老

老 一

及

𠂇 及

盡

𠂇 盍

變

二言 絲

○前後運筆ノ説アレトモ大同小異アリテ更ニ
 一定ナラス王ノ字ノ如キハ上ノ一畫ヨリ豎
 畫ヲ作り次ニ二畫ヲ書スルモアリ二畫ヨリ
 豎畫ヲ作り次ニ一畫ヲ書スルモアリ田ノ字
 ノ如キハ中ノ豎畫ヨリ次ニ二畫ヲ書スルア
 リ又二畫ヨリ次ニ豎畫ヲ書スルモアリ今茲
 ニ出スハ草書ニ近キ運筆ニヨリテ出セルナ
 リ



大篆

説文ノ叙ニ周宣王ノ太史籀大篆十五篇ヲ著ス
 古文ト或ハ異ナリト云張懷瓘モ同説ニテ衛恒
 ノ四體書勢ニハ大篆ハ程邈カ作ルト云呂氏春
 秋ニハ蒼頡大篆ヲ作ルト云リ皆誤ナリト篆ハ
 傳ナリ其物理ヲ傳ヘコレヲ無窮ニ施スト又懷
 瓘ノ説ナリ

籀文

字體奇ナルニヨリ
 奇字氏云リ

顏師古漢書注ニ奇字ハ即チ古文ニシテ異ナル
 モノナリ作者ノ姓名ヲ知ラズト云張懷瓘ハ籀

文ハ周ノ太史史籀カ作ルトコロナリ古文大篆
ト小シク異ナリ

小篆 玉筋篆トモ云

説文ノ叙ニハ秦ノ始皇ハジメテ天下ヲ兼テ丞
相李斯倉頡篇ヲ作り中車府令趙高爰歷篇ヲ作
リ太史令胡毋敬博學篇ヲ作ル皆史籀カ大篆ヲ
取り頗ル省キアラタム所謂小篆ナリト云
張懷瓘曰隸書ハ秦下邳人程邈所作ナリ字皆直
正唐ヨリ以前ニテ楷書ヲ謂テ隸ト為ト云リ然
ルヲ何ノ代ヨリカ秦隸漢隸ノ名ヲ分チテ八分

書ニ混ズ歐陽永叔ハ八分ト隸ト同ジト云陶九
成ハ漢隸ノ挑法ナキモノハ八分書ナリ漢隸ハ微
小篆ニ似タリト云ルナド名ヲ謬ルノ初ト云ベ
シ

八分書 今ノ誤リ稱スル

張懷瓘曰八分ハ秦ノ羽人上谷ノ王次仲作ル所
ナリト李陽氷カ説ト云ルモ是ニ同ジ蕭子良ハ
漢ノ靈帝ノ時上谷ノ王次仲トテ秦人ト姓名ヲ
同クセシ者八分ヲ作レリト云周越ハ後漢ノ王
次仲始テ八分ヲ作ト云李綽モ八分書ハ漢ノ王

次仲ニ起ルト云リ八分書ノ漢ニ起レル説ハ疑
フトコロアラザルベシ

楷書真書正書今隷トモ云ベシ

モト漢隷ノ體漸次ニ變ジテ成タルモノナリ張
懷瓘カ字皆直正唐ヨリ以前ハ皆楷書ヲ謂テ隷
ト為ト云ルモ孫過庭カ隷ハ精ニシテ密ナルヲ
欲スト云モ方勁古拙折刀頭ノ如シト云ルモ皆
此楷書ヲ云ルナリ

章草

衛恒四體書勢ニ漢興テ章草アリ作者ノ姓名ヲ

知ラズト説文ノ序同シ張懷瓘書斷ニ王愔ヲ引
テ章草ハ漢黃門令史游カ作ルトコロナリ隷體
ヲ解散シテコレヲ麤書スルモノナリト云リ

行書

張懷瓘曰行書ハ後漢潁川ノ劉德昇カ作ル所ナ
リ即チ正書ノ小譌ニシテ務テ簡易ニ從フ相間
リテ流行ス故ニコレヲ行書ト謂リト法書ハ蘭
亭ヲ最トス

草書

張懷瓘曰草書ハ後漢ノ徵士張伯英カ作ル所ナ

り縦ニ奔逸ニ任シ急ニ赴キ速ニ就ル草創ノ義
ニ因テコレヲ草書ト謂リ

飛白

張懷瓘曰飛白ハ後漢ノ左中郎將蔡邕カ作ル所
ナリト其絲髮ノ如ニシテ素地ヲ見スヲ白ト云
勢飛翻スルガ如キヲ飛ト云ナリ

六書

說文序ニ新室王莽大司空甄豐等ヲシテ文字ノ
部ヲ校セシム頗ル古文ヲ改メ定ム此時ニ六書
アリ一ニ曰古文二ニ曰奇字三ニ曰篆書四ニ曰

佐書五ニ曰繆篆六ニ曰鳥蟲書ナリ

筆

古人ニ種々議論多ケレトモ其人ニ因テ小異ア
リ概シテ佳トスルハ羊毛ナリ製筆モイロクハ
レ尺毫ヲ擇テ細カルベシ管ハ大ニアラス又小
ナレバ運動カヲ省キ毛細ク柔ナレハ點畫ヲ失
フ疆毛ナレハ勁角オホシテ淇潤自由ナラス故
ニ精良ナル羊毛ニテ無根ヲヨシトスルカ

紙

彼邦ニテハ綿料煮礎牋ヲ最上ノ佳品トス金沙

紙コレニ次グ永豊ノ綿紙ト云ヘルヲ第一トナ
スヨシ彼邦ニテハ堅滑ナルヲ喜ブテニテ歐陽
通書ヲ作ルニ紙ハ必緊薄堅滑ナルモノヲ佳ト
スルトアリ

硯

我邦長門對馬甲斐美作等其材佳ナルモノニ遇
ハバ下宮ノ端溪ヨリ餘ホド優レル物アリ其ノ
佳ナルヲ知ラサル者ハ端溪ノ名ヲ知リテ能ヲ
知ラサルモ故ナリ凡ソ硯ハ硯筭ニ所謂發墨玉
ノ如ク磨ニ聲ナク早ク磨シ密ニオリルモ最上

品ナリ必シモ産スル地ニ拘ラズ擇ブ石ニア
リ柳公權ハ青州石第一タリ絳州ノ者コレニ次
ト云歐陽公ハ歙ノ龍尾ヲ以テ遠ク端溪上ニ出
ト云徽宗ハ眉子石ヲ愛セラレ研譜ニ天下ノ
研四十餘品青州紅絲石ヲ以テ第一トシ斧柯山
石第二トシ歙州龍尾石第三トスト見エタリサ
レバ彼邦ニテモ好ム所ニ隨テ一定ナラヌコト
知ルベシ且寒中ニ湯ヲ以テ硯水トスレバ凍ル
テ速ニシテヨク硯ヲ裂クコトアリ注意スベシ
又硯ヲ用ヒ畢レバコレヲ乾カスベシ久シク浸

シテ乾カサバレハ發墨セズト云リ

墨

絹地日本紙ノ類ニハ南都ノ墨佳ナリ唐紙ニ至
リテハ彼ノ邦ノ墨ニ及バザルハモトヨリ論ナ
シサレトモ三夏ヲ過レバ用ニ堪ルナリ高麗ノ
松烟墨ハ多年ノ老松烟ヲ用ヒ麋鹿膠ニ和シテ
造成ストイフ東坡曰世人墨ヲ論ズル多ハ其黒
ヲ貴デ其光ヲ取ラズ光テ黒カラザル固ヨリ棄
物タリ若黒シテ光ラザル索然トシテ神采ナキ
モ亦無用ナリトイフ墨經曰墨色ハ紫光ヲ上ト

ナス黒色コレニ次ク青光又コレニ次グ白光ヲ
下トナスナリ宋ノ熙豐以來油烟ヲ用ヒ腦麝金
箔ヲ用ヒ腦麝金箔ヲ入テ龍香劑ヲ糊ムハ晁氏
墨經ニ凡墨藥ハ尚矣魏ノ韋仲將真珠麝香二物
ヲ用ユトコレヲ藥ヲ用フルノ始ナラニ香祖筆
記ニ東坡カ墨ヲ作ル方ニ高麗煤契丹膠トアレ
トモ良佳トスベキ物ハ数年ヲ経タルモノニア
リ必ス新製ニアラサルナリ

學小書法辨終

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '學', '書', '法', '辨', '終']

版權免許明治十一年五月廿三日
刻成 同 十一年六月十五日

著者

静岡縣士族

久保田梁山

第五大區四小區外神田
五軒町一番地

出版人

東京府平民

中村熊次郎

第一大區七小區桶町七番
地

